二〇二一年一一月二七日

塵とりに鈴懸落葉はみだしぬ　むべ

人力車専用路あり竹の春　はく子

堰堤の底ひを見せてダム涸るる　よう子

日当たれる太閤石に冬紅葉　わかば

蹴られたる足を甘噛み炬燵猫　素秀

縫ひぐるみ日向ぼつこすフリマかな　うつぎ

肉球の音なく踏みし落葉道　むべ

先を行く人に木の葉の降りやまず　わかば

免許返納せし駐車場菊の鉢　なつき

炬燵から這ひでる猫の目は虚ろ　素秀

冬の川下る艪さばき棹捌き　はく子

七五三大きな夢を絵馬に書く　よし子

玄関のチャイムに脱ぎぬちゃんちゃんこ　うつぎ

蹴られたるボール枯芝まみれかな　よう子

ときめきぬ花柊のこぼれ香に　うつぎ

朴落葉がらんどうなる駐輪場　愛正

毎週句会秀句・みのる選・二〇二一年一一月二八日